やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	32 / 2013 / 50-52　(再編集版)
タイトル	青森市のハグロトンボ　2012年の記録 情報　弘前市でもハグロトンボの目撃例が増加中！
著　者　名	室谷洋司　/　編集部

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

青森市のハグロトンボ　2012年の記録

第10代　室谷　洋司

本誌30号（17～23頁）に「ハグロトンボが帰ってきた！ 復活の兆しか？」を書いた。漆黒の羽と独特な飛び方を見せるこのトンボは、真夏の風物詩として平地の小川ではどこにでも見られたが、生息環境の悪化から忽然と姿を消してから相当の年月が経っていた。ところが昨年 2011年になって青森市内の一部に姿を現したのである。その場所は限られ、個体数も少ないものであったが、この勢いでより広く、個体数も増えて欲しいものと確認された6地域を報告した。

今年2012年は、集中調査といった特別の作業は行わなかったが、会員各氏から連絡が入り、友人のトンボの研究家・高橋克成氏は新しい産地を追加された。ハグロトンボを水辺環境に依存する生物の1指標としての、その生息状況の変遷を記録することは有意義なことと考え、ここにまとめて おくことにした。

情報を提供された、五十嵐正俊、五十嵐豊、高橋克成、佐藤博、古木誠の各氏に感謝する。

ハグロトンボの確認情報

情報1　五十嵐豊氏から。

今年も油川中道の自宅裏の水路に飛んできました。7月10日午後4時頃で少し弱っていたようで簡単に素手で捕まえました。♀で腹長49mm、後羽長44mm、測定後再び放虫しました。その後は見ていません。

情報2　佐藤博氏から。

8月15日午後2時30分頃、住宅地の桜川4丁目の公園緑地の東側から1匹が飛んできた。広い道路を横切り桜川集会所の西側空地を通過して行った。なお、約100m東方には駒込川が流れているが、他に水路などは近くにはない。

情報3　五十嵐正俊氏から。

9月14日。場所は新城川に合流する支流のひとつ二股川で水生昆虫の調査をしました。合流点から150mほど上流の田圃の近く、青森市の「廃棄物最終処分場」からの汚水が流入して臭いにおいがする“汚い川”、見るからに濁りもあり入川するのもためらうような川なのですが、物理的な環境はやや渓流的。目の前にハグロトンボの♀が現れました。カメラを取りに戻って探していたら少し下流で発見、シャッターを切りながら接近。10枚ほど撮影しました。

高田朝日山での観察

昨年は8月7日に、田園地帯から里山に通じる水路に沿って飛ぶのを確認したが、周辺を精査しても生息地は発見できなかった。

今年は7月13日午後3時頃、同所の里山の入口で1匹を発見。その後、里山のクリ林で下草に静止しているのを観察した。7月17日午後4時頃には同じく入口とクリ林内で確認し2匹いることが分かった。7月20日には入口付近で1匹を確認した。この一帯には南、東、北の3方に小川があるが、そこでは確認できなかった。しかしこれ以外に周辺には水辺がないことから、小川が草木で覆われて

いることや、ハグロトンボ自体の個体数がまだ少ないから確認できないのではないかと推察している。この調査には古木誠氏の協力を得た。

2012年の確認地の整理

昨年の調査結果を踏まえながら、今年（2012年）の観察・確認結果を整理しておく。

観察・確認地、月日（時間）、個体数、観察・確認者の順に記載し、昨年の記録と関連性を持たせるために（　）内に産地番号を付した。このうち油川について昨年は中道と野木和公園付近をともに②としたが、両地は明らかに離れていることから中道を②とし野木和を⑦として区別した。（　）内に“新”とした産地番号は今年、新たに追加された新産地を表す。したがって、これまでハグロトンボは青森市内11地点で観察・確認したことになる。

○ 油川：中道の住宅地内の側溝（産地番号②、写真1）
　2012年7月10日16時頃　1♀　五十嵐豊

○ 高田：田園地帯の里山に通じる道路、林内（産地番号⑤、写真2）
　7月13～20日15～16時頃　複数　室谷洋司、古木誠

○ 諏訪沢：各所の水路（産地番号⑥）
　7月17～24日　複数　高橋克成

○ 野内：各所の水路（産地番号④）
　7月18日　多数　高橋克成

○ 油川：野木和公園付近の水路（産地番号⑦）
　7月22日　高橋克成

○ 野内：野内川河口付近（産地番号新⑧）
　8月8日　高橋克成

○ 桜川：住宅地の路上（産地番号新⑨）
　8月15日14時30分頃　1頭　佐藤博

○ 宮田：矢田地区にある池（産地番号新⑩）
　8月17日　高橋克成

○ 二股川（新城川支流）（産地番号新⑪、写真3）
　9月14日　1♀　五十嵐正俊

写真1　油川中道（7月10日、五十嵐豊氏撮影）

写真2　高田朝日山（7月17日、古木誠氏撮影）

写真3　二股川（9月14日、五十嵐正俊氏撮影）

ンンデ 3面
ト作品 16面
の入賞 17面

陸奥新報

1月13日
日曜日

©陸奥新報社2013

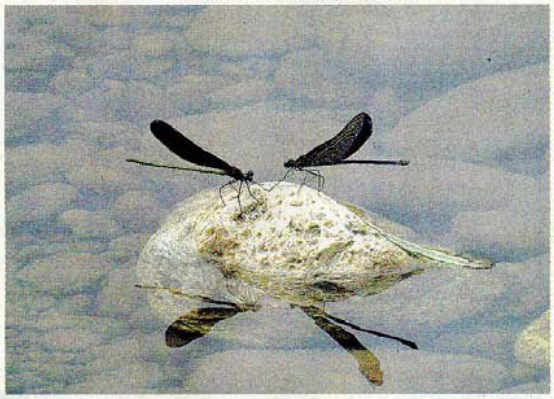
弘前市下白銀町2の1 ☎0172－34－3111（代表） www.mutusinpou.co.jp 購読申し込み0120－365－062

弘前市中心部に集中

ハグロトンボ目撃例

HEP21 村田さん「河川水質改善か」

弘前市中心部で目撃される例が増えているハグロトンボ（村田孝嗣さん提供）



生活排水の流入などによる水質汚染の影響で一時、弘前市内から姿が見えなくなっていたハグロトンボの2012年の目撃例が、市中心部に集中していることが12日、分かった。同市の自然環境把握を目的に、ひろさき環境パートナーシップ（ＨＥＰ）21の自然環境グループが目撃情報を集めているもので、同グループリーダー村田孝嗣さんが同日、市総合学習センターで開いた自然環境学習会で発表した。下水道整備などによる河川の水質改善が要因と推定され、村田さんは「今後は水質やヤゴ（幼虫）の生育場所などの調査も進めたい」と話している。（石橋治佳）

ハグロトンボは50年ほど前は弘前市の中心部で見られたが、洗剤などの化学物質を含む生活排水などの流入で水質汚染が進み、次第に見られなくなった。

だが7年ほど前から同市での目撃例があり、同グループは市内の自然環境を把握しようと2006年に情報収集を開始。同年の目撃は2件だったが、徐々に情報は増加した。市街地で目撃される例も目立ち、11年には159件の情報が寄せられていた。

12年は6月中旬から10月末ごろまでに131件。猛暑の影響で個体数の発生は減ったとみられるが、目撃場所は市中心部を流れる川沿いの狭い範囲に集中している。

学習会で村田さんは「ハグロトンボは羽化した後に拡散していくので、場所と時期を照らし合わせることで発生場所を追跡できる」と説明。11年と同様に生活排水がほとんど流れない二階堰沿いに多いが、岩木川本流が流れる藤代地区、加藤川が流れる宮園、青山地区などにも分布しているという。

村田さんは「実際に川のヤゴを調べてみなければ分からないが、（これらの川がハグロトンボの）発生源だと予想できる。これだけ市中心街で見られるようになったのは、水質の改善が進んでいるといえるだろう」とし「今後も市民に働き掛けて環境を見詰めていきたい」と話した。

また、取材に対し「一時期は全くいなかったのが回復している。今後も目撃情報を集め、発生源とみられる河川の水質、生物の調査などを市民も巻き込んでやっていきたい」と意欲を見せた。

情報　　弘前市でもハグロトンボの目撃例が増加中！

上に掲げたのは、「陸奥新報」（2013年1月13日付）のトップ記事です。弘前市の各所を土淵川などいくつかの川が流れています。近年、市民ぐるみの環境浄化思想が高まっていて、このことがハグロトンボが市街地に出現するなど、多くの水生生物の復活に功を奏している可能性があります。

青森、弘前両市に限らず、他の都市部周辺でもこのような現象が起こっている可能性があります。継続的な観察が必要です。　（編集部）